

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 18 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23390517

研究課題名(和文)活動の必要性と成果を住民と意志決定者に「見せる公衆衛生看護技術」の構築

研究課題名(英文)Development of Public Health Nursing Skills to Show the Necessity/Results of Healthcare-activities toward Population and Decision Maker

研究代表者

岡本 玲子(Reiko, Okamoto)

岡山大学・保健学研究科・教授

研究者番号：60269850

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、住民と意思決定者に活動の必要性と成果を見せる公衆衛生看護技術を構築し、それを習得する学習プログラムを開発することである。

2011年度は、「見せる公衆衛生看護技術」を定義し、活動の必要性を見せる技術、活動の成果を見せる技術、保健師の存在価値を見せる技術について内容を体系化、2012年度はそれをもとにテキスト「見せる公衆衛生看護技術」を作成、2013年5月に出版(岡山大学出版会)。2013年度はテキストを用いた教育プログラムを検討・試行した。2014年には成果普及に向けたWEB教材を作成・公開した(<http://www.miseru.fhs.okayama-u.ac.jp>)。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to build the public health nursing skills to show the necessity and the results of healthcare-activities toward population and decision makers, and to develop the learning programs to acquire that.

"Public health nursing skills for showing" was defined in fiscal year 2011 and the contents were systematized about the skills which were to show "necessity of healthcare-activities", "results of healthcare-activities" and "existence value of public health nurses". We wrote the text in fiscal year 2012, and it was published in May 2013 (Okayama University publishing Association). Learning programs using the text were considered and made some trials in fiscal year 2013, and WEB teaching materials for the results dissemination were created and opened to the public in fiscal year 2014 (<http://www.miseru.fhs.okayama-u.ac.jp>).

研究分野：公衆衛生看護

キーワード：公衆衛生看護学 保健師 技術開発 地域アセスメント 評価 能力開発 プログラム開発 教育方法

1. 研究開始当初の背景

近年、健康危機への対応や、虐待や自殺の防止、生活習慣病予防、健康格差の是正など、社会が公衆衛生行政に求めるニーズが拡大・深刻化している。しかし、国や地方自治体の財政難により新規事業の予算化や既事業の拡大は困難であり、ニーズに応える活動の必要性やその成果を可視化して説明する保健師の力量が問われている。

公衆衛生従事者に求められる能力は、専門職員として、行政職員として、基本的な能力に大別されており(佐伯ら, 2004)。そのうち行政職員としての能力には、企画・計画、情報収集・活用、意思決定、説明・調整、交渉・折衝、組織運営、育成・指導が含まれている。応募者らが明らかにした「今特に強化が必要な保健師の専門能力(11項目, 2007)」にも「活動の必要性を根拠に基づいて見せ、説明する」「活動の成果を評価に基づいて見せ、説明する」の2項目が抽出され、実際に活動計画・実施を決定、および実施した後、改善・継続(あるいは中止)を決定することに関わる能力強化の必要性が示されている。

1990年代から広がりはじめたEvidence-Based Medicine (Guyattら, 1992)を機に、保健・医療・看護の分野では、Evidence-Basedで系統的な活動展開が求められており、必要性や成果を見せる技術は、Evidence-Based Practiceを具現化する過程においても必要な技術である。また、英国のSpecialist Community Public Health Nurseの専門能力の領域には「健康に影響する政策に関与する能力」が(NMC, 2004)、米国のPublic Health Nursingのコア能力においては「政策立案・計画策定能力」が設置されている(Quad Council, 2003)。さらに、厚生労働省による保健師教育の指針「保健師の卒業時の到達目標と到達度(2010.10)」においても「社会資源開発・システム化・施策化」が設けられていることから、今後ますます公衆衛生看護における「活動の必要性を見せる技術」「活動の成果を見せる技術」が求められる状況にある。しかし公衆衛生看護領域において、この課題に関する研究はほとんどなされていない現状があった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、平成16~19年度および平成20~22年度の基盤研究(B)で応募者らが開発した学習成果創出プログラムをさらに発展し、なかでも「活動の必要性を見せる技術」「活動の成果を見せる技術」に焦点をあて、それらを「見せる公衆衛生看護技術」として構築する事である。

「活動の必要性を見せる技術」は、住民主体の地域づくり活動と事業化・施策化への計画立案を推進し、「活動の成果を見せる技術」は、住民への説明責任と事業・施策の評価・改善を推進することに意義がある。

3. 研究の方法

2011年度:「求められる技術内容の明確化」のために文献検討とH22予備調査結果の分析および専門家パネルの意見収集を行った。
2012年度:前年度の結果をもとに、共同研究者で「技術内容の体系化と学習プログラム(評価尺度を含む)」を継続検討し、テキストを作成した。

2013年度:「テキストを用いた学習プログラムの作成」のためにプログラムを模擬実施するワークショップ・研修を4か所で開催し、意見収集結果をもとにプログラムを更新した。

2014:構築した見せる公衆衛生看護技術を習得する学習プログラム(WEB教材)を検討・作成し公開した。

4. 研究成果

(1)見せる公衆衛生看護技術を定義し、その構成を明確化し、内容を解説するテキストを出版した。

定義:保健師が公衆衛生看護の専門家として、公衆衛生看護の目的を果たすために、住民や意思決定者、関係者に対して、解決・改善すべき事象について、責任を持って可視化し、根拠に基づいて説明する技術

テキストの構成:序章 保健師はなぜ「見せる」必要があるのか~公衆衛生の向上にむけた意思決定と継続的質保証を推進するために~

第1部「見せる公衆衛生看護技術」とは何かを理解するために 第1章 活動の必要性を見せる 第2章 活動した成果を見せる 第3章 保健師が役に立つ、意義のある存在であることを世間に見せる

第2部「見せる手段」を習得するために 第4章 企画を見せる 第5章 根拠を見せる 第6章 見せる根拠の作り方 第7章 見せるチャンネルとその活用戦略 第8章 保健師の力量を見せる

第3部「見せる公衆衛生看護技術」を習得するために 第9章 学習成果創出型プログラム 第10章 コンピテンシー評価指標

(2)見せる公衆衛生看護技術を獲得する学習プログラムを検討し、WEB教材を開発した。
(<http://www.miseru.fhs.okayama-u.ac.jp>)

技術の枠組み:「見せる公衆衛生看護技術」の枠組みは、1.活動の必要性を見せる(1)予算を投じる事業の必要性を意志決定者に見せる技術、(2)住民主体の活動の必要性を住民に見せる技術) 2.活動の成果を見せる(1)予算を投じた事業の成果を意志決定者・関係者に見せる技術、(2)住民主体の活動の成果を住民に見せる技術) 3.保健師の存在価値を見せる技術(1)保健師の必要性和価値を意志決定者・関係者・住民に見せる技術、(2)保健師の専門性や能力の到達度を保健師同士あるいは自分自身に見せる技術)である。

WEB教材には、見せる公衆衛生看護技術の概要に関する講義と、上記1-(1)、2-(2)

をクローズアップした演習を設定し、学習者がそれらを通して技術を習得できるように構築した。

(3)「活動の必要性を見せる技術」と「活動の成果を見せる技術」の行動評価に用いる尺度を開発した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 9 件)

岡本玲子、鳩野洋子、小出恵子、長野扶佐美、岩本里織、草野恵美子、保健師活動の必要性をみせる行動尺度の開発、日本公衆衛生雑誌、査読有、62 巻、2015、pp.連絡待ち

鳩野洋子、岡本玲子、長野扶佐美、岩本里織、草野恵美子、小出恵子、保健活動の成果をみせる行動実践尺度の開発、日本看護研究学会誌、査読有、4 巻、2014、pp.55-61

星田ゆかり、岡本玲子、自治体保健師の施策化における説明力の向上を目指した学習成果創出プログラムの実施と効果、日本地域看護学会誌、査読有、15-3 巻、2013、pp.51-61

岡田麻里、岡本玲子、小出恵子、岩本里織、特定保健指導担当者のコンピテンシーを高める学習成果創出プログラム実施による参加者の学習成果、日本地域看護学会誌、査読有、15-2 巻、2012、pp.27-36

岡本玲子、岩本里織、尾ノ井美由紀、草野恵美子、いま地域看護学と公衆衛生看護学を考える、看護教育、査読無、53-5 巻、2012、pp.356-362

谷垣静子、岡本玲子、小寺さやか、俵志江、岩本里織、草野恵美子、鳩野洋子、大学院における保健師等のコンピテンシーを高める学習成果創出プログラムの検討 - 保健師等の 10 年以上の受講生の学習過程を通して -、保健の科学、査読有、54-9 巻、2012、pp.641-646

岡本玲子、谷垣静子、岩本里織、草野恵美子、小出恵子、鳩野洋子、岡田麻里、塩見美抄、小寺さやか、俵志江、星田ゆかり、福川京子、茅野裕美、尾ノ井美由紀、保健師等のコンピテンシーを高める学習成果創出型プログラムの開発 大学院の地域貢献を目指すアクションリサーチの一環として、日本公衆衛生雑誌、査読有、58 巻、2011、pp.778-792

岡本玲子、保健師養成所指定規則の改正にあたって 実践現場と教育機関が協力して保健師教育の質向上に挑もう!、保健師ジャーナル、査読無、67 巻、2011、pp.318-327

岡本玲子、保健師の指定規則と公衆衛生看護学に込められた意味、保健の科学、査読無、53 巻、2011、pp.381-387

〔学会発表〕(計 25 件)

Reiko Okamoto、Youko Hatono、Saori Iwamoto、Kayoko Gouda、Fusami Nagano、Relationships between Practical Competence and Reflection Skill / Experience of Japanese PHNs, AMERICAN PUBLIC HEALTH ASSOCIATION 142nd ANNUAL MEETING & EXPO (New Orleans, USA), 2014 年 11 月 16 日

岡本玲子、岩本里織、塩見美抄、関裕子、自治体保健師の専門性発展力の変遷 ~ 2005・2010・2014 年調査からの考察 ~、第 73 回日本公衆衛生学会総会、栃木県総合文化センター、(栃木県宇都宮市)、2014 年 11 月 7 日

馬場わかな、岡本玲子、地域の健康課題明確化に向けた自治体保健師による質的データ活用技術の明確化、日本地域看護学会第 17 回学術集会、岡山コンベンションセンター、(岡山県岡山市)、2014 年 8 月 3 日

我澤量子、岡本玲子、他者の介入を拒否する一人暮らしの男性高齢者への保健師の家庭訪問技術 ~ 対象把握から受け入れまで ~、日本地域看護学会第 17 回学術集会、岡山コンベンションセンター、(岡山県岡山市)、2014 年 8 月 2 日

岡本玲子、公衆衛生看護疫学の内容に関する考察 ~ 求められる保健師を育てる教育のために ~、第 72 回日本公衆衛生学会、三重県総合文化センター、(三重県津市)、2013 年 10 月 25 日

Reiko Okamoto、Yoko Hatono、Fusami Nagano、Saori Iwamoto、Emiko Kusano、Keiko Koide、Creation of an Action Evaluation Scale for Showing the Necessity of Health Care Projects and Examination of Related Factors, International Collaboration for Community Health Nursing Reserch(ICCHNR), (Edinburgh, UK), 2013 年 3 月 13 日 ~ 2013 年 3 月 14 日

Emiko Kusano、Reiko Okamoto、Yoko Hatono、Saori Iwamoto、Keiko Koide、Fusami Nagano、Maki Nakagawa、Ryoko Gasawa、Professional competency and learning behavior associated with the use of theory in public health nurse activity, International Collaboration for

Community Health Nursing Reserch(ICCHNR), (Edinburgh, UK), 2013年3月13日~2013年3月14日

Yoko Hatono, Reiko Okamoto, Fusami Nagano, Saori Iwamoto, Emiko Kusano, Keiko Koide, The Development of an Action Evaluation Scale for Showing Results in Healthcare Activity and the Examination of Its Related Factors, International Collaboration for Community Health Nursing Reserch(ICCHNR), (Edinburgh, UK), 2013年3月13日~2013年3月14日

Maki Nakagawa, Reiko Okamoto, Keiko Koide, Saori Iwamoto, Emiko Kusano, Yoko Hatono, Ryoko Gasawa, The scales of expertise, occupational factors, and learning factors related to an experience in presenting a paper at an academic conference, International Collaboration for Community Health Nursing Reserch(ICCHNR), (Edinburgh, UK), 2013年3月13日~2013年3月14日

Ryoko Gasawa, Reiko Okamoto, Keiko Koide, Saori Iwamoto, Emiko Kusano, Yoko Hatono, Maki Nakagawa, The scales of expertise, occupational factors, and learning factors related to the hope of going on to a graduate school for public health nurses, International Collaboration for Community Health Nursing Reserch(ICCHNR), (Edinburgh, UK), 2013年3月13日~2013年3月14日

長野扶佐美, 岡本玲子, 鳩野洋子, 小出恵子, 活動の必要性和成果を見せる行動に影響した保健師の努力経験、第1回日本公衆衛生看護学会学術集会、首都大学東京荒川キャンパス、(東京都荒川区) 2013年1月14日

福川京子, 岡本玲子, 行政保健師の研究成果活用能力の関連要因、第1回日本公衆衛生看護学会学術集会、首都大学東京荒川キャンパス、(東京都荒川区) 2013年1月14日

西田洋子, 岡本玲子, 中川真希, 我澤量子, 栗根由希子, 保健師が果たすべき説明責任(アカウントビリティ)の明確化—文献検討と研究者間協議より—、第1回日本公衆衛生看護学会学術集会、首都大学東京荒川キャンパス、(東京都荒川区) 2013年1月14日

馬場わかな, 岡本玲子, 地域の潜在的健康課題明確化に向けた質的データの活用技術、首都大学東京荒川キャンパス、(東京都荒川区) 2013年1月14日

茅野裕美, 岡本玲子, 小出恵子, 鳩野洋子, 岩本里織, 草野恵美子, 福川京子, 長野扶佐美, 行政保健師の専門性発展力と職業要因・学習要因の関連、日本地域看護学会第15回学術集会、聖路加看護大学、(東京都中央区) 2012年6月23日~2012年6月24日

茅野裕美, 岡本玲子, 小出恵子, 鳩野洋子, 岩本里織, 草野恵美子, 福川京子, 長野扶佐美, 保健師のプロフェッショナルとしての自信度、専門性発展力の実態と学習要因との関連、第70回日本公衆衛生学会総会、秋田アトリオン(F会場)(秋田県秋田市) 2011年10月20日

小出恵子, 岡本玲子, 茅野裕美, 鳩野洋子, 岩本里織, 草野恵美子, 福川京子, 長野扶佐美, 保健師の引継ぎ資料の実態と学習要因との関連、第70回日本公衆衛生学会総会、秋田アトリオン(F会場)(秋田県秋田市) 2011年10月20日

長野扶佐美, 岡本玲子, 鳩野洋子, 岩本里織, 草野恵美子, 小出恵子, 茅野裕美, 福川京子, 活動の必要性和成果を見せる能力の実態—保健師の全国調査より—、第70回日本公衆衛生学会総会、秋田アトリオン(F会場)(秋田県秋田市) 2011年10月20日

岡本玲子, 鳩野洋子, 長野扶佐美, 岩本里織, 草野恵美子, 小出恵子, 茅野裕美, 福川京子, 公衆衛生看護時術評価尺開発の試み1活動の必要性和成果を見せる能力の測定、第70回日本公衆衛生学会総会、秋田アトリオン(F会場)(秋田県秋田市) 2011年10月20日

鳩野洋子, 岡本玲子, 長野扶佐美, 岩本里織, 草野恵美子, 小出恵子, 茅野裕美, 福川京子, 公衆衛生看護時術評価尺開発の試み2活動の必要性和成果を見せる能力の測定、第70回日本公衆衛生学会総会、秋田アトリオン(F会場)(秋田県秋田市) 2011年10月20日

②Saori Iwamoto, Reiko Okamoto, Keiko Koide, Emiko Kusano, Yoko Hatono, Hiromi Kayano, Kyoko Fukukawa, Comparing changes in the basic public health activity skills of public health nurses over time, The 2nd Japan-Korea Joint Conference on Community Health Nursing, 神戸市看護大学、(兵庫県神戸市), 2011年7月18日

②Reiko Okamoto, Keiko Koide, Emiko Kusano, Saori Iwamoto, Yoko Hatono, Hiromi Kayano, Kyoko Fukukawa, Fusami Nagano, Actual conditions of evidence-based public health nursing practices. An analysis of the descriptions of "Identical Target" and "Outcome

Expression"-, The 2nd Japan-Korea Joint Conference on Community Health Nursing, 神戸市看護大学、(兵庫県神戸市), 2011年7月18日

②Kyoko Fukukawa, Reiko Okamoto, Keiko Koide, Saori Iwamoto, Emiko Kusano, Yoko Hatono, Hiromi Kayano, Actual conditions of the practical proficiency of public health nurses working in Administration Agencies, The 2nd Japan-Korea Joint Conference on Community Health Nursing, 神戸市看護大学、(兵庫県神戸市), 2011年7月18日

④Hiromi Kayano, Reiko Okamoto, Keiko Koide, Emiko Kusano, Saori Iwamoto, Yoko Hatono, Kyoko Fukukawa, Fusami Nagano, Relationship between PHNs self-confidence and professional development scale, The 2nd Japan-Korea Joint Conference on Community Health Nursing, 神戸市看護大学、(兵庫県神戸市), 2011年7月18日

⑤Emiko Kusano, Reiko Okamoto, Keiko Koide, Saori Iwamoto, Yoko Hatono, Hiromi Kayano, Kyoko Fukukawa, Fusami Nagano, Characteristics examined in public health nurse education background of young public health nurses and factors related to self-evaluation of practical proficiency in Japan, The 2nd Japan-Korea Joint Conference on Community Health Nursing, 神戸市看護大学、(兵庫県神戸市), 2011年7月18日

【図書】(計 2 件)

岡本玲子、医歯薬学出版株式会社、公衆衛生看護学テキストシリーズ・第1巻 公衆衛生看護学原論 第6章社会的健康の分析ツール、2014、172(115-161)

岡本玲子、小出恵子、鳩野洋子、草野恵美子、岩本里織、浜田淳、山川路代、津田敏秀、北脇知己、岡本里香、芳我ちより、岡山大学出版会、見せる公衆衛生看護技術、2013、174

【産業財産権】

- 出願状況(計0件)
- 取得状況(計0件)

【その他】WEB教材(公開ホームページ)

■見せる公衆衛生看護技術サイト■
<http://www.miseru.fhs.okayama-u.ac.jp>

6. 研究組織

(1)研究代表者

岡本玲子 OKAMOTO, Reiko
岡山大学大学院保健学研究科・教授
研究者番号：60269850

(2)研究分担者

鳩野洋子 HATONO, Yoko
九州大学大学院医学研究院・教授
研究者番号：20260268

岩本里織 IWAMOTO, Saori
徳島大学大学院保健学研究部・教授
研究者番号：20321276

小出恵子 KOIDE, Keiko
岡山大学大学院保健学研究科・助教
研究者番号：40550215

草野恵美子 KUSANO, Emiko
大阪医科大学看護学部・准教授
研究者番号：70346419

津田敏秀 TSUDA, Toshihide
岡山大学大学院環境生命科学研究科・教授
研究者番号：20231433

浜田 淳 HAMADA, Jun
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科・教授
研究者番号：70334886

北脇知己 KITAWAKI, Tomomi
岡山大学大学院保健学研究科・准教授
研究者番号：40362959

芳我ちより HAGA, Chiyori
岡山大学大学院保健学研究科・准教授
研究者番号：30432157

合田加代子 GOUDA, Kayoko
香川県立保健医療大学保健医療学部・准教授
研究者番号：20353146

(3)連携研究者

山川路代 YAMAKAWA, Michiyo
岡山大学地域総合研究センター・助教
研究者番号：50734555

岡本里香 OKAMOTO, Rika
岡山大学大学院保健学研究科・博士後期課程
研究者番号：10280009

(4)研究協力者

福川京子 FUKUKAWA, Kyoko
岡山大学大学院保健学研究科・博士後期課程
研究者番号：30554216

長野扶佐美 NAGANO, Fusami
岡山大学大学院保健学研究科・元博士前期課程